とくtalk
［とくと～く］

徳大広報
2025春号
Spring No.199
Tokushima University

特集
新入生歓迎号

学長メッセージ P1
同窓会メッセージ P3
徳島大学公式ファンクラブ P4
徳島大学キャンパスガイド P5
とくだいライフ P7
My Campus Life P8
医学部 医学科 3年 北村 美風
大学院創成科学研究科 生物資源学専攻 1年 喜瀬 あおい
生物資源産業学部 生物資源産業学科 4年 七瀬 風我
海外体験記 P9 理工学部 理工学科 4年 中崎 陽介
研究室へようこそ P10 歯学部 教授 松香 芳三研究室
最先端研究探訪 P11 総合科学部 教授 段野 聡子
徳大ニュース P13
徳島大学基金 / 編集後記

徳島大学基金

皆さまには、平素から徳島大学の教育、研究、社会との共創活動に対しまして様々なご支援・ご理解を賜り、誠にありがとうございます。

徳島大学は、未来を見据え、現在までに培ってきた知と人の財産を継承し、新しい時代と社会の課題に応えうる教育・研究の充実を図ってまいります。 徳島大学が将来にわたり「人、地域をはぐくみ未来をつくる」活動を推進していくには、長期的に安定した財産基盤の強化、基金の充実が不可欠です。 教職員はもとより、卒業生、学生のご家族をはじめ、個人、企業、団体などの皆さまにおかれましては、温かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

基金プロジェクトサイトはこちら

徳島大学基金の取組

「地域や社会を動かす挑戦の軌跡 ～クラウドファンディングを活用した挑戦者の集い～」を開催

（2025年2月16日 常三島キャンパスフューチャーセンターA.BA）

徳島大学においては、地域社会貢献型クラウドファンディングOtsucleを活用した寄付募集が9年目を迎えました。このたび初めて、これまでOtsucleで研究・学生プロジェクト・行政・地域活動など多様な分野のプロジェクトに挑んだ挑戦者たちが集うシンポジウムを開催しました。当日、研究者や学生、地域の団体など約40人に参加いただき、Otsucle挑戦者による成果報告やパネルディスカッションを行いました。本シンポジウムを通し、Otsucleで挑戦したプロジェクトの成果を共有し、その社会的意義と地域への貢献を再確認することができました。参加・協力いただいた皆さまにこの場を借りて御礼申し上げます。

詳細はこちら

徳島大学推し支援基金

徳島大学には、日々新しい挑戦を続ける研究者や学生がいます。地域や社会とつながりながら、未来を切り拓く研究や、意義深い活動を展開しています。しかし、それらを支える財源には限りがあり、より多くの支援が求められています。「徳島大学推し支援基金」は、皆さまが「推したい」研究室や学部、学生団体、研究者、プロジェクトなどを直接支援できる仕組みです。この基金を通じて、皆さまが大切に思う研究や活動を、より具体的に支援できるようになります。皆さまの想いを確実に届けて参ります。ぜひ、本基金の趣旨にご理解とご賛同をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

詳細はこちら

ご寄付をいただいた皆さま（五十音順）

2024年10月から12月までの間に、徳島大学基金にご寄付いただいた皆さまのご芳名を紹介させていただきます。ご支援、誠にありがとうございました。

秋山 佳輝 様
置山 和彦 様
木下 真人 様
鈴木 亜紀子 様
長岡 正治 様
堀内 弘之 様
山口 敏彦 様
吉野 和嗣 様
石村 倫子 様
小國 順 様
株式会社栗田機械製作所 様
高岡 勝吉 様
西 貴大 様
三浦 光太郎 様
山星 和男 様
米田 道生 様
井上 義章 様
奥本 真一 様
高木 宏典 様
西原 伸江 様
宮村 幸雄 様
山本 洋平 様
大谷 清 様
上村 孝幸 様
栗田 峰雄 様
高橋 敏美 様
橋爪 太 様
矢部 誠一 様
吉田 静代 様
大村 源一郎 様
社会医療法人川島会 様
呉 恒 様
田村 和大 様
株式会社百十四銀行 様
山口 勝己 様
吉田 孝美 様

なお、各学部の周年事業基金にご寄付いただいた皆さまにつきましては、徳島大学ホームページにて紹介させていただいております。
徳島大学では、学生や研究者の活動が充実していくよう引き続き寄り添い支援していきます。今後も、徳島大学の取組および徳島大学基金の充実にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

徳島大学基金寄付者のご紹介

【お問合せ先】徳島大学経営企画部 大学経営企画課 未来創造室 Tel：088-656-9979 E-Mail：dosokikink@tokushima-u.ac.jp

編集後記

薬学部 教授 山田 健一

新入生ならびにそのご家族の皆さまご入学おめでとうございます。徳島大学広報誌とくtalkは徳島大学の取り組み・授業・研究や在学生の活躍などの情報をお届けする季刊誌です。春号は「新入生歓迎号」と題してキャンパス情報や学長からのメッセージを中心にお届けいたしましたがお楽しみいただけましたでしょうか。とくtalkは年に四回発行しておりますが配送の都合でどうしてもお届けに時間差が生じてしまいます。WEB上でも公開しておりますのでタイムリーにご覧いただける電子版も併せてご利用いただければ幸いです。毎号様々な特集を企画して大学の様子や在学生・卒業生の活躍についてお伝えしてまいりますので引き続きご愛読ください。

徳大広報とくtalk No.199をお読みいただきありがとうございます。
ご意見ご感想は下記にお寄せください。
発行：徳島大学法人運営部総務課広報室
〒770-8501 徳島市新蔵町2-24
Tel：088-656-7646 E-mail：koho@tokushima-u.ac.jp
URL：https://www.tokushima-u.ac.jp/about/publicity/toku_talk
発行日：2025年4月 本誌は年4回（4月、7月、10月、1月）発行

アンケートはこちら

とくtalkバックナンバー

ミックス 紙 | 責任ある森林管理を支えています FSC® C126198

本誌表記の所属・学年等は令和6年度時点のものです。

特集 新入生歓迎号［学長メッセージ］

深く輝く、未来を紡ぐ大学 徳島大学へようこそ

徳島大学長 河村 保彦（かわむらやすひこ）

平洋を臨みます。徳島市西方には平安時代の船王（ふなのおおきみ）の和歌「眉（び）のごと雲居にみゆる阿波の山懸けて漕ぐ舟泊まりしらずも（万葉集）」と詠まれた眉山、さらに西には四国第二の高峰剣山を臨み、南はサーフィンに多くの人々が集う美波町や源義経一行による屋島攻めの経由地となった小松島市が存する、風光明媚で歴史的背景にも富んだ地です。皆さんが入学される春爛漫の時期は、満開の桜とそれに次いですぐ、葉一杯の陽光を受けて木々が一斉に芽吹き、周囲の山々が彩りを競います。そうした自然の美しい景観は、これから大学生活を謳歌しようとする皆さんの気持ちを、時に癒してくれることでしょう。

創立75周年を迎えて

徳島大学は今や世界的にも評価される大学の一つであり、さらにそのレベルを向上させつつあります。例えば、研究面では2018年に徳島県が選定された内閣府の「地方大学・地域産業創生交付金事業」～次世代〝光〟創出・応用による産業振興・若者雇用創出計画～が、さらに2023年度〈展開枠〉として全国5拠点の1つとして継続採択されました。光工学研究と製品の社会実装を通じた若者の人材育成と地域における雇用創出に努めています。それに加えて、今年1月にビッグ・ニュースが舞い込みました。徳島大学は、文部科学省の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEARS）」に採択されたのです。昨今、我が国の研究力が世界の中で低下している状況を鑑み、国が巨額を投じて基金を造成して資金を運用し、その運用益を世界に伍して研究力を高める「国際卓越研究大学」に投じ、支援する計画が先行しました。一方、全国の各地域の大学でも特長ある優れた研究が進んでいます。そうした大学を同様に支援し、総体として我が国の研究力向上を目指そうとしています。それがJ-PEARSです。このプロジェクトには、2年間で全国134機関から応募がありました。徳島大学は、5倍の競争率をくぐり抜け、採択25機関の1つに選定されました。

教育面では、2023年度に文部科学省の「魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増」のプログラムで、理工学部理工学科に学部等横断型の特別教育プログラム「医光／医工融合プログラム」がスタートしました。所属する学生は、学部1年次から学部学科・コース等で学べることになった訳ですが、同時に俯瞰的な視野を忘れず身に付けて下さい。新型コロナウイルス禍や世界各地の戦禍、予測不可能な自然災害など、今もその爪痕に喘いでいる人々がいます。現代社会はますます複雑化、多様化しており、社会の一員である私たちは、仕事を通じて産み出したモノやサービス、提供した医療などが受益者にとって本当に有益か、想像する力が欠かせません。そのために俯瞰的視野を身につけることが必要です。

結びとして

皆さんには、徳島大学で学ぶことを誇りに思い、健康に留意し、有意義な学生生活を送って下さい。そして、幅広い人間性を高め、夢と希望に向けてチャレンジされるよう祈念して止みません。

＊AI／DS：人工知能／データサイエンス

徳島大学の沿革と現状、地勢的状況

本稿では、まず徳島大学の沿革と現状、そして地勢的状況について触れます。徳島大学は、4つの旧制官立学校が発展的に統合され、1949年（昭和24年）5月に新制大学として発足しました。昨年には創立75周年を迎えました。現在6学部（総合科学部、医学部、歯学部、薬学部、理工学部、生物資源産業学部）、6大学院研究科（創成科学研究科、医学研究科、口腔科学研究科、保健科学研究科）、教養教育院及び大学病院、附属図書館、4つの研究所、12の学内共同教育研究施設等を擁する総合大学です。一方、地勢的には当地徳島は、大河吉野川の河口扇状地に広がり、北は鳴門海峡、東は紀伊水道を介して太

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。晴れて徳島大学生となられ、大きな希望を胸に抱いておられることでしょう。皆さんは、2020年に蔓延し始めた新型コロナウイルス禍で、厳しい学校生活を強いられました。そうした避け難い状況下で、勉学に勤しんでこられた皆さんのこれまでの努力を讃えますとともに、皆さんを日々支え、指導助言にあたられたご家族や関係の方々にも心からお祝い申し上げます。

研究室配属され、分野の垣根を取り払って指導を受けます。さらに昨年は、文部科学省の「大学・高専機能強化支援事業」に採択され、先端融合情報学プログラム「情報科学（AI／DS＊）と他分野融合で地域課題を解決する」高度情報人材育成事業がスタートします。良い大学教育は、背景に秀でた研究があります。産官学金、そして多くの篤志家の皆さまの多大なご支援を受け、徳島大学は一層教育力・研究力を高めて、皆さんと社会に還元し大学としての役割を果たす所存です。

大学での学び

上記の通り、躍動する徳島大学では、これから皆さんが主役として、大学の新たな歴史の1ページを紡いでいくことになります。そこで、新入生の皆さんにぜひ心に留めていただきたいことを以下に3点記します。

第一に、アルバイトで就学維持を図らなくてはならない学生さんもいらっしゃることでしょう。しかし、今は将来への投資と考え、ぜひ学業に打ち込んでいただくことを優先して下さい。アルバイトにおいても最小限とし、自らを磨く機会と捉えて前向きに取り組んで下さい。

第二に、外国語、特に英語コミュニケーション力の強化をぜひ初年次から心がけて下さい。現代社会では、皆さんの今後のキャリアで、英語は基礎力の一つとして重視されています。徳島大学では、それぞれと思いますが、英語コミュニケーション力をつけ、幅広い分正課以外にも多くの機会を用意しています。実力レベルも好みもそ

第三に、皆さんは晴れて希望の

ご入学おめでとうございます　各同窓会の紹介と会長・理事長メッセージ

青藍会　医学部医学科同窓会

（会員数）7,582名（令和6年7月現在）
（学生支援事業）白衣授与、青藍会奨励賞、青藍会スポーツ奨励賞 など

入学おめでとう。青藍会は「会員相互の親睦と母校の発展に寄与」することが目的です。学生諸君も会員としてお迎えし、全国14支部を擁する組織です。在学時から卒業後までの支援を行なっています。皆さまの入会を心より歓迎します。

会長
荒瀬 誠治
（あらせ せいじ）

渭水会　総合科学部同窓会

（会員数）9,616名
（学生支援事業）渭水会会長賞 など

ご入学おめでとうございます。昨年、総合科学部は創立150周年を迎え、渭水会では学部と共催で記念行事を開催しました。優秀な学部生及び院生に「渭水会会長賞」を贈るなど学生支援にも努めています。

会長
石井 博
（いしい ひろし）

睦眉会　医学部保健学科同窓会

（会員数）7,915名
（学生支援事業）新入生歓迎昼食会開催、卒業・修了記念品贈呈 など

ご入学おめでとうございます。睦眉会は、徳島大学医学部保健学科、同大学院保健科学研究科、ならびに前身校を含めた同窓会です。平成8年に発足し、会員名簿や会報の発行、総会や講演会の開催など会員相互の親睦と母校の発展のために活動しています。

会長
久米 博子
（くめ ひろこ）

栄友会　医科栄養学科同窓会

（会員数）3,296名
（学生支援事業）新入生歓迎会、阿波踊り、院生送別会 卒業記念品、就職活動支援 など

ご入学おめでとうございます。栄友会は、医科栄養学科（旧栄養学科）及び大学院の卒業生、在学生、教職員で組織された同窓会です。徳島本部、東日本、関西そして九州・山口県に支部を置き、上記の学生支援事業の他に総会・講演会の開催や、会報・会員名簿の発行を通して、会員の皆さまの交流を支援しています。

会長
曽川 美佐子
（そがわ みさこ）

薬友会　薬学部同窓会

（会員数）5,478名（令和7年2月現在）
（学生支援事業）卒業・修了記念品贈呈

ご入学おめでとうございます。薬友会は同窓生の交流と母校の支援を目的に活動しています。全国に9支部を置き、同窓会・支部会の開催支援や、薬学部と共同で講演会・ホームカミングデーの実施、さらに同窓会誌や会員名簿の発行を通じて、世代を超えた結びつきを応援しています。

会長
水口 和生
（みなくち かずお）

蔵歯会　歯学部同窓会

（会員数）2,371名（令和7年4月現在）
（学生支援事業）国家試験対策支援、バーベキュー大会 同窓会・支部説明会、進学就職ガイダンス 生涯研修セミナー、卒業記念品贈呈

チャンスはその辺に転がっています。拾うか、拾わないか、気が付くか、気が付かないかここで人生の岐路に出会います。
Today is the first day of the rest of your life. さあこれからはじめよう。

会長
山村 昌康
（やまむら まさやす）

工業会　工学部・理工学部・生物資源産業学部同窓会

（会員数）30,394名（令和7年2月現在）
（学生支援事業）成績優秀賞、工業会賞、国際交流助成費、卒業・修了記念品贈呈、就職支援セミナーなど

ご入学おめでとうございます。工業会の設立は1933年で全国に18の支部があり、会員相互の世代を超えた交流が活発に行われています。皆さまは準会員となりました。このネットワークは皆さまの将来の就職活動や就職後の頼もしい味方となります。

理事長
森 浩道
（もり ひろみち）

※各同窓会会員数について、特に記載のないものは令和6年8月調査時の会員数（物故者を除く）を掲載しています。

徳島大学公式ファンクラブ『縁側キャンパス』会員募集中

本学は、地域社会との結びつきを深め、地域中核の役割を果たすことを目指して、徳島大学公式ファンクラブ『縁側キャンパス』を設立しました。

登録対象者

卒業生・修了生、寄付者、学生の父母等、教職員、名誉教授、地域住民の方々、県人会、本学にゆかりのある方

登録方法

新規で登録をご希望される方はこちらから

■縁側キャンパストップページにアクセス → 右上の【入会のお申し込み】→（任意のID、メールアドレス、パスワード）を登録 → メールアドレスに送られてきた認証数字を登録 → 登録者の情報を入力 → 携帯番号で認証 → 登録完了となります。
本学へご寄付いただいた皆さまにも、特典として縁側キャンパスにご参加いただけますので、招待メールが送付されましたらぜひご登録ください。

【縁側キャンパスとは？】

このコミュニティは、学部・学科や世代、業種を超えた交流と親睦を促進し、本学の学生やその活動を支えるネットワークの拡大を図ります。また、このネットワークを通じて、大学と関係者との交流機会を創出し、ステークホルダーの増大や維持、さらに応援や支援につなげることを目指しています。

【縁側キャンパスへの想いは】

縁側のように「外と中をつなぐ場所」であり、卒業生・修了生や地域社会の皆さまが気軽に立ち寄れる温かいホームのような存在を目指していく気持ちを込めています。公式ファンクラブ『縁側キャンパス』は、帰ってきたくなる温かい場所、自分の話をできる場所として、本学と地域社会、卒業生、在校生を結ぶ架け橋を目指していきます。

【ロゴについて】

テーマは科学の「水引」。〈伝統〉と〈革新〉をキーワードにしたシンボルで、日本伝統の水引と螺旋構造を組み合わせたサークル型です。

水引には、紐を結んでいることから転じて人と人とを結びつけるといった意味があり、縁側に訪れた人が繋がり、そこから発明、発見が生まれることを想起させる螺旋構造をイメージしています。サークル型は「円＝縁」も掛けており、無限に続くこともイメージしています。出会いと創造性を「結ぶ」結実させる「縁起」の良い「縁側」となるような願いを込めています。

【会員サービス】

●会員限定ウェブサイト
本学の「今」を知る記事やお役立ち情報、学部学科、世代を超えた交流、徳島の情報
●イベント情報、メールマガジン、マイページ

「円」が広がる、「縁」を広げる… 出会いと創造を広げるコミュニティ

広がるご縁！ 縁側キャンパスで新しいつながりを

大学や卒業生の情報が満載！ 縁側キャンパス会員限定サイト

徳島大学キャンパスガイド

Tokushima University Campus Guide

徳島大学が位置する徳島県は、県土のおよそ8割を山地が占め、四国最大級の吉野川をはじめ大小約500の河川が流れるなど、豊かな自然に恵まれた場所です。県下に6つ置かれている大学の拠点では、土地の特性を活かした教育や研究も盛んに行われており、「地球視点で考え、徳島発で行動する」大学として、地域はもちろん、世界各国との交流も進めています。

1 常三島キャンパス ●〒770-8502 徳島市常三島町一丁目1番地　他

主に総合科学部、理工学部、生物資源産業学部の学生が学ぶメインキャンパスの一つ。敷地内には様々な研究施設や学習環境が整備されており、共通講義棟に設置されているLED大時計は本学のシンボル的存在です。また、地域連携プラザや地域創生・国際交流会館では、学生はもちろん、一般向けの講演なども多数行われており、広く地域の方に開かれています。

2 蔵本キャンパス ●〒770-8503 徳島市蔵本町三丁目18番地の15　他

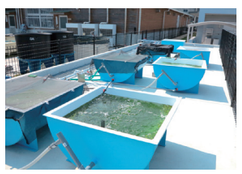
医学部、歯学部、薬学部、そして大学病院が置かれており、地域社会に貢献するチーム医療を学べるキャンパス。昨年新設された医歯薬学共創プラザで実践的にスキルを習得できることはもちろん、隣接している大学病院での実習や臨床試験を通じて、実際の医療現場で学ぶこともできます。また、地域の医療機関と連携を深めながら、地域の健康課題や現場のニーズにも対応すべく、研究を進めています。

3 新蔵キャンパス ●〒770-8501 徳島市新蔵町二丁目24番地

大学の本部機能が置かれているキャンパス。敷地に建つ日亜会館には、留学生宿舎や放送大学のほか、地域連携・社会交流活動拠点としてガレリア新蔵という展示ブースがあり、学生や教職員、また地域の方が様々な活動を展示・発表しています。

4 鳴門キャンパス（生物資源産業学部水圏教育研究センター） ●〒771-0361 鳴門市瀬戸町堂浦地廻り壱96番地の14

主に海藻の養殖や養殖技術についての研究を行っており、屋内で様々な環境を再現し最適な育成環境を探る基礎研究から、屋外水槽における大量養殖技術の検証等の応用研究までを一貫して実施しています。



5 石井キャンパス（石井地区） ●〒779-3233 名西郡石井町石井字石井2272番地の2

生物資源産業学部農場、バイオイノベーション研究所が置かれているこの地区は、約10万m²という広大な敷地を有しており、圃場や果樹園の他に、植物工場や昆虫、ブタの品種改良等を行う研究室があり、先進的な研究に取り組んでいます。

6 新野キャンパス（とくしまイノベーションセンター） ●〒779-1510 阿南市新野町室ノ久保12番地

徳島県立阿南光高校新野キャンパス内に位置し、農業や環境、バイオ技術等に関して学べる校舎。実践的な研究や教育を行っており、高大接続による教育活動や、産業界との連携による研究活動の拠点となっています。

観光スポット
祖谷のかずら橋
平家一族の哀話を秘める秘境にある、シラクチカズラで作られた橋

観光スポット
うだつの町並み
「うだつ」と呼ばれる防火壁をつけた家々が軒を連ねる、歴史を感じさせる町並み

ひとこと comment!
兵庫県の淡路島と大鳴門橋で結ばれており、本州から車移動する場合の四国の玄関口という役割も。大阪からバスで約2時間30分、東京から飛行機で約1時間20分と、主要都市からアクセスしやすい場所に位置しています

観光スポット
鳴門の渦潮
鳴門と淡路島の間にある鳴門海峡に大きな渦が発生する自然現象

4 鳴門キャンパス

ひとこと comment!
常三島キャンパスにあるシンボルストリートは、夜になると足元にある青色LEDが光ります

高松自動車道
神戸淡路鳴門自動車道
鳴門線
高徳線
徳島自動車道

石井キャンパス 5

詳細図

ひとこと comment!
常三島キャンパス～蔵本キャンパスはバスで約30分

観光スポット
徳島城跡
復元された鷲の門や徳島城博物館などから、当時の面影をしのぶことができます

観光スポット
眉山
徳島市の中心市街地に接する標高290mの東西になだらかな丘陵地

牟岐線
6 新野キャンパス

ひとこと comment!
常三島、蔵本、新蔵キャンパスは遺跡の上に立地しており、埋蔵文化財調査室はこれらの遺跡の調査・研究と、それを活用した大学教育・地域貢献を行っています

ひとこと comment!
大学の略称は徳大（とくだい）

各キャンパスへの交通アクセスや詳細マップは、右記ページをご覧ください。常三島・蔵本キャンパスをブラウザ上で散策できるサービスもありますのでぜひご利用ください。

部活や研究に情熱を注ぎ、有意義な学生生活を送っている様子を取材しました。

蔵本キャンパス

学部や学年を超えた様々な人との出会いが多様な価値観や考え方を学ぶきっかけに

医学部 医学科 3年生 **北村 美風**（きたむら みかぜ）

蔵本祭実行委員会は主に3年生が中心となって活動していて、新入生は新歓時期に募集するそう。詳しくはInstagramをチェック!

蔵本祭実行委員会
instagram

2024年10月26日、27日の2日間、蔵本キャンパスで開催された『第40回蔵本祭』。北村さんは蔵本祭実行委員会で会計を務めました。「各学部からの援助金など、扱う金額も大きく、お金の管理は責任が重かったですが、いい経験になりました。私は部活にも入っていないですし、あまり人前に出るようなタイプでもないですが、思い切って挑戦して良かったです。活動を通じて学部や学年を超えた出会いがたくさんあり、いろいろな人と繋がりができました」。

昨年の学祭は模擬店やステージの配置を変更したり、アーティストライブを行うなど、変更点も多く、調整に苦労したそう。その分、達成感や充実感も大きく、「興味のある人はぜひ参加して欲しい」と呼びかけます。

3年生は研究室配属もあり、北村さんは脳神経内科の松井尚子先生の研究室の配属に。研究室では重症筋無力症の治療方針についての研究を行ったそう。

最近は臨床医学の講義も始まり、「医者になるんだ」という将来の目的がより身近になり、勉強へのモチベーションも高まっているといいます。「どの分野に進むかは考え中。これから学んでいくうえで視野を広げて考えていきたい」と話しました。

石井キャンパス

「徳大ポーク」の試食販売も実施 飼育から加工、商品開発まで 実践的に学べるA9研究室

大学院創成科学研究科 生物資源学専攻 1年 **喜瀬 あおい**（きせ あおい）
生物資源産業学部 生物資源産業学科 4年生 **七瀬 風我**（ななせ ふうが）

写真左から2番目が喜瀬さん、左から3番目が七瀬さん。A9研究室では2023年4月、学生ベンチャー企業『株式会社C'est bon Jambon（セ・ボン・ジャンボン）』を設立し、「徳大ハム」のオンライン販売も実施中。新商品の熟成ベーコンもおすすめ!

セ・ボン・ジャンボン
HP

生物資源産業学部農場食肉加工研究室A9森松研究室に所属する2人が、同学部農場で飼育した豚を「徳大ポーク」としてショッピングセンター・ゆめタウン徳島で試食販売を行いました。

同研究室は石井町のふるさと納税返礼品としても人気の「徳大ハム」の開発販売も手がけていて、これにバイヤーが着目。「肉の販売もして欲しい」というオファーに応え、「ロース」「もも」などの部位別はもちろん、「しゃぶしゃぶ用」「焼き肉用」など料理に使いやすいよう工夫したところ、用意していた360kgが完売しました。「実際に売り場に立って自分たちで作った商品を売るという実践的な体験ができてよかった」と振り返る七瀬さん。喜瀬さんも「A9研究室は飼育から加工まで一貫して行える全国的に珍しい研究室です。品質管理や商品開発、生産技術も学べ、こうした体験は社会に出てからもいかされると思う」と話します。

初めはお客さんに声をかけるのも緊張したそうですが、のぼりやエプロンなども用意し、回を重ねるごとに販売方法もブラッシュアップ。「学生のうちにいろいろ挑戦したい」「様々な活動に関わり、そこでの人間関係も大切にしたい」と積極的に取り組んでいます。

次回は4～5月頃に販売会を予定しているそうなので、「徳大ポーク」をぜひ味わってみて。

学生広報スタッフに聞く

とくだいライフ

総合科学部
社会総合科学科 1年
安部 汐南（あべ ゆうな）

私は大分県出身で、現在は徳島市内で一人暮らしをしています。課外活動は学生広報スタッフでの活動の他に、らぱっと編集部とカフェ部に所属しており、学業と両立しながら日々楽しく大学生活を送っています。平日はほぼ毎日授業がありますが、時間割の組み方次第では、午前中は自宅でオンライン授業を受け、午後から大学に登校することも可能なため、高校時代と比べると自由度が高いです。私の場合、週に一回午前中で授業が終わる日があったので、午後は図書館で勉強したり、アルバイトをしたり、友達と遊びに行ったりなどして、有意義に時間を使っていました。また、高校まではほとんど家事をしていませんでしたが、一人暮らしを始めてからは、昼食は学食を利用しつつ、朝食と夕食は自炊するようになりました。常三島キャンパスの周りはスーパーも多いので、とても助かっています！

1日のスケジュール

■平日	
7:30	起床
7:30 ～ 8:00	朝の準備、小テストの勉強
8:40 ～ 10:10	授業
10:30 ～ 12:00	学生広報スタッフの活動
12:00 ～ 12:30	お昼ごはん
12:50 ～ 16:05	授業
16:20 ～ 17:30	図書館で勉強
18:00 ～ 21:30	アルバイト（本屋）
22:00 ～ 23:00	夜ごはん
25:00	就寝
■休日	
9:00	起床
9:00 ～ 10:00	朝ごはん、ストレッチ
10:00 ～ 11:30	図書館で勉強
12:30 ～ 16:00	大塚国際美術館を巡る
17:00 ～ 19:00	友達とショッピング
19:00 ～ 20:00	友達の家で夜ごはん
22:00 ～ 23:00	地元の友達と電話
25:00	就寝

学生広報スタッフに入って最初の活動で撮った写真

新入生のつどいで同じグループだった子たちと撮った写真

自炊で作ったオムライス

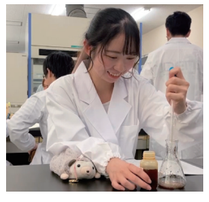
理工学部 理工学科 3年
川野 幸薫（かわの さちか）

私は現在実家で暮らしており、大学には自転車で通っています。サークルはダンスサークルに所属、アルバイトはアパレルをしています。

私の所属しているコースでは、週二回、お昼から夕方にかけて実験があります。実験には予習が必須なので、前日までにしっかりと予習をしておきます。実験は早ければ15時に、遅くとも18時には終わります。実験が終わった後は家に帰り、その日行った実験のレポートを書きます。実験がない日はアルバイトに行くか、友達と過ごすことが多いです。また、テストや課題がある時は大学で夜ごはんを食べてそのまま図書館で勉強することもあります。休日は朝にサークルかアルバイトに行き、その後は全て自由時間となっています。友達と遊びに行ったり、課題やテスト勉強をしたり、ゲームをしたりと様々です。実家に住んでいるので自分の時間が取りやすく、のびのびと生活させてもらっています。

1日のスケジュール

■平日	
8:30	起床
10:25 ～ 11:55	授業
11:55 ～ 12: 50	お昼ごはん
12:50 ～ 18:00	実験
18:30 ～ 19:30	夜ごはん
19:30 ～ 23:30	勉強
25:00	就寝
■休日	
8:30	起床
10:00 ～ 13:00	アルバイトorサークル
13:30 ～ 14:30	お昼ごはん
14:30 ～ 18:30	自由時間
18:30 ～ 19:30	夜ごはん
19:30 ～ 23:00	自由時間
24:30	就寝



実験の様子

阿波踊りにて雷連の友達とのスリーショット

常三島祭での様子

大学公式X

学生広報スタッフは、主に大学公式Xにて学生目線での情報発信を行っています。ぜひフォローお願いします!

多くの人に支えられた海外留学

理工学部 理工学科 4年 中崎 陽介（なかさきようすけ）

私は、徳島大学創立70周年記念事業基金〝COIL を使ったグローバル共同学習プログラム〟の一環として、協定校であるマレーシアマラッカ技術大学（UTeM）とのVRゲーム開発プロジェクトに参加しました。このプログラムは、約半年をかけてUTeMの学生とオンラインでやりとりしながら、SDGsを学ぶためのVRゲームを開発し、その集大成としてUTeMでプレゼンとゲームの実演をするものでした。授業とVRゲーム開発の両立に目の回る忙しさでしたが、ハプニングも含めて貴重な経験に満ちた14日間の短期留学でした。

初めてづくしの国際交流

私は本学イノベーションプラザの学生プロジェクトである〝ゲームクリエイト〟（ゲークリ）に所属しています。2年生の時、テクニカルアドバイザーの先生から「UTeMの学生とVRゲームを開発しないか?」と誘われ、英語に苦手意識をもっていましたが、初海外という憧れもあって、チャレンジ精神で参加を決めました。ゲークリや情報系の実験授業でゲーム開発は経験していたものの、ゲームの企画、設計・実装、動作検証についてオンラインですべて英語でやりとりする必要がありました。もちろん、初めての経験です。インターナショナルオフィス・国際課による海外留学危機管理セミナーや英語講座を受講して、渡航の不安と英語の苦手意識を取り除いていきながら、ゲーム開発にも注力しました。初めての国際交流は、現地に行く前からかなり密度の濃いものでした。

全力疾走がピークに達し

徳島大学からは7名が渡航しました。初海外であるマレーシアの空港に降り立つと、一緒に苦労してゲームを作ってきたUTeMの仲間が盛大に出迎えてくれました。これまでの交流には〝バーチャル感〟がありましたが、仲間との対面に〝リアル〟を実感した瞬間でした。

翌日からゲームのブラッシュアップ。私のチームは、SDGsの「すべての人に健康と福祉を」に焦点を当て、〝医者の不養生〟を疑似体験する生活習慣改善ゲームを開発したのですが、より良いゲームにするために、3Dモデリングやゲームバランスの改良などに集中して取り組みました。夕方以降は仲間とマラッカの街に繰り出し、現地の観光スポットや名物料理を楽しんだり、カラオケやボーリングに行ったりと、とにかく全力で国際交流を楽しんでいました。

そんなある日の夜、仲間と地元の料理店で夕食をとっていると、突然お腹が痛くなり、そのまま意識を失ってしまいました。気が付くと心配そうに見守る仲間たちの顔が。私は病院のベッドの上にいました。疲労が溜まっていた上に、滞在にも慣れて気が緩んでいたところに、体に合わない食物を摂取してしまったのだと思います。その後は順調に回復し、プレゼンもゲームの実演も問題なくこなすことができました。この出来事を通じて、海外での体調管理の大切さはもちろん、周囲の人々の温かさを痛感しました。私を病院へ搬送して献身的に支えてくれたUTeMの仲間に心から感謝しています。

大きな自信につながった短期留学

この短期留学を通じて、国際的な共同作業の難しさや、それを乗り越えたときの達成感、そして、国や文化の違いを超えた友情の大切さを実感しました。苦労も多かったですが、言葉の壁を乗り越えて仲間と協力し合えたことは、大きな自信につながっています。国際交流の楽しさと可能性を改めて感じることができた今回の経験を活かして、何事にもチャレンジしていきたいと強く思います。

ペトロナスツインタワー

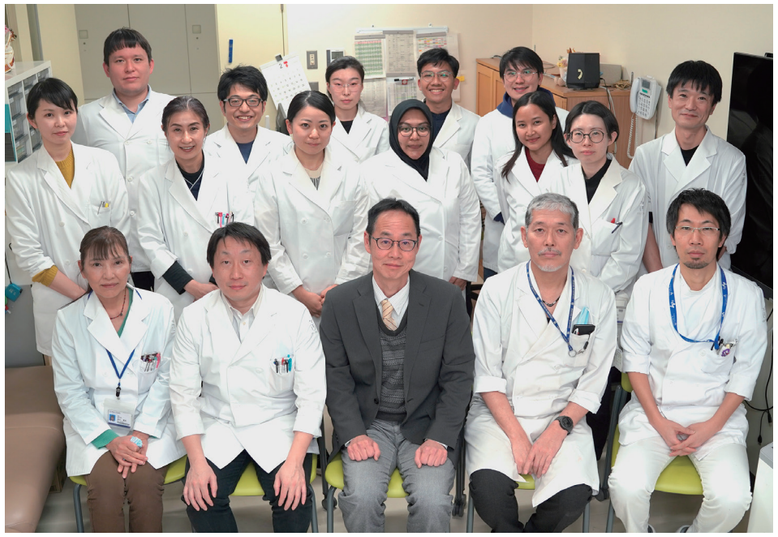
マレーシアでの朝

VRゲーム開発

VRゲーム体験

学会発表、論文も続々! 成長し続ける若手研究者の拠点
顎機能咬合再建学分野

歯学部 松香 芳三（まつかよしぞう） 研究室



神経機能解析、再生医療、金属アレルギー、顎口腔機能の4つを軸に臨床歯学研究が進む顎機能咬合再建学分野。

顎の機能、夜間の歯ぎしりなど、複数の研究テーマが並行して進む中で、注目のトピックは大島正充准教授が参画している「次世代バイオインプラントの開発研究」と話す松香先生。

2025年2月から福島県の南東北医療クリニックで特定臨床研究が始まるというニュースは大きな反響を呼んでいます。インプラントはネジ型の人工歯根を歯槽骨に固定する治療法ですが、次世代バイオインプラントは、天然歯と同じように歯根膜という靭帯を介して歯槽骨に結合させるのだとか。そのため、生理的な歯の移動や物を噛む感覚も得られるのではないかと期待が寄せられています。

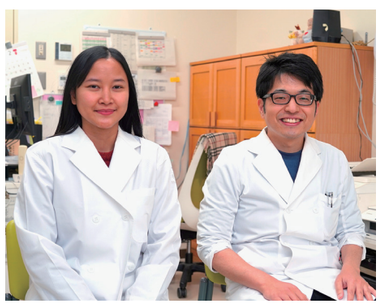
その他にも「面白い研究をやっているんですよ」と教えていただいたのは、「おやつをたくさん食べると、歯ぎしりをする」という研究。

睡眠時の血糖値と歯ぎしりの関係についての研究を行っている谷脇さん。被験者9名を対象に糖質の多いおやつを禁止し、代わりに大豆製品などの糖質が少ない低グリセミックインデックス食品を間食として食べるなどの食生活習慣を変えたことで、睡眠時の血糖値がコントロールでき、歯ぎしりの抑制効果が見られたとのことです。この研究は第23回日本睡眠歯科学会定期学術集会で「糖質制限による睡眠時ブラキシズムへの効果の検討、中間報告」として発表され、優秀な研究発表を行った若手研究者に贈られる菊池賞を受賞しました。

またカレーのスパイスとしても知られるターメリックに含まれるクルクミンの痛みを抑える効果に着目した研究も。インドネシアからの留学生ダラさんはクルクミンに炎症を抑える効果があるという論文を見つけ、ラットを使った実験を行っています。ダラさんは「将来、クルクミンを主成分とした痛み止めができるかも」と話します。

こうした研究の発表の場として日本補綴歯科学会があります。学会では優秀な演題を口頭で発表する「課題口演」に9題が選出されるのですが、今年、9題のうち2題がこの研究室から選出されました!「1題選ばれるだけでもすごいことですが、2題も選ばれるなんて、この先もうないんじゃないかと思います」と驚きを隠せない松香先生。

臨床研究をやりたいという若い研究者が国内外から集まり、活発に研究できる環境がこうした成果に繋がっています。



大学院口腔科学研究科博士課程3年 谷脇竜弥さん（写真右）と大学院口腔科学研究科博士前期課程1年（口腔保健福祉学分野所属）Dara Sari Arini さん（写真左）。ダラさんは今年1月、徳島大学脳科学クラスターミニリトリート優秀発表賞を受賞。

持続可能な地域の在り方を探る
エコノミックガーデニングによる地方創生

総合科学部 教授 **段野 聡子**（だんの さとこ）

2025年3月1日は「第2回 地域経済活性化のための人財育成ー エコノミックガーデニング（EG）の知見からー」を開催。EG寒川、EG京都、EGおおさか、EG鳴門などEGに取り組む人たちが全国から集まり、「エコノミックガーデニング施策における自治体の取り組み」について発表しました。

植物を育てるように中小企業を支援し、はぐくむEGという手法

地元企業や地域産業の発展により、地域経済の活性化を目指す〝エコノミックガーデニング（EG）〟。地域を「土壌」、中小企業を「植物」に見立て、庭木を育てるように地域経済を手間暇かけて育てていこうという取り組みです。

1980年代にアメリカのコロラド州リトルトンで始まったエコノミックガーデニングは、雇用は2倍、税収は3倍という成功を収め、世界的に有名になりました。

大企業誘致に頼るのではなく、地元中小企業を資源と捉え、その魅力を掘り起こすことで地域経済活性化に繋げていこうという、エコノミックガーデニングは日本でも注目を集めています。

日本におけるEGの先進地 徳島県鳴門市

この手法を日本でいち早く取り入れたのが、徳島県鳴門市。鳴門市では2012年に産学公民金融機関「EG鳴門」を立ち上げました。運営については公共政策や経済学を専門とする段野先生にも相談がありました。

段野先生の研究室では、行政機関や企業を訪問し、政策や財務状況について、ヒアリングやアンケート調査を実施。講義で習得した理論を実社会に応用し、課題を分析し、よりよい政策や経営のあり方を考えています。

鳴門市では2016年に中小企業の支援条例を策定し、市職員が年間100社以上の企業を訪問。支援金などの情報提供を行い、サポートしています。「業績の向上に繋がった」という声もある一方、「エコノミックガーデニングを知らない」という企業も多いといいます。

「エコノミックガーデニングは体系化された手法ではないため、各地でその土地にあったやり方が模索されています。例えば神奈川県寒川町では行政職員だけでなく、地域経済コンシェルジュという中小企業診断士の資格をもった専門家も一緒に訪問し、Face to Faceの伴走型の支援を実施しています。

中小企業の支援のあり方も含め、企業が抱える労働問題や生産性の向上といった課題解決のためには、大学や経済の専門家、地域の経済団体、銀行などが一緒に取り組んでいくことが大切。中小企業を地域の資源と考え、その魅力をみんなで掘り起こし、経済の活性化に繋げるために産学公民金が連携したプラットフォームを作り、地域が一体となって進めていくことで、成果に繋がるのではないかと考えています」。

シンポジウムや勉強会をきっかけに地域企業へエントリーする学生も

段野先生はエコノミックガーデニングについて、多くの人に関心をもってもらおうと、2021年から勉強会やシンポジウムを開催しています。

企業や自治体、地域の経済団体などが全国各地から参加し、そこにゼミ生も加わります。こうした会をきっかけに企業に興味を持ち、地元企業への就職を考える学生もいるそう。

「例えば『ふとんのタカハシ』さんは、社員同士で感謝を伝え合う『サンキューカード』を導入するなど、働きやすい職場環境づくりを行っている楽しくてアットホームな会社です。

ブライダルの『ときわ』さんは、社員の提案や意見をもとに経営を進めるボトムアップ企業。現場の意見を重視し、それが企業の方針や戦略に反映される仕組みを持つのが特徴です。個々の能力が高くないと成り立たない形態で、組織力もすごい。

徳島県はこうした優良企業が多いということを情報発信していくのも、エコノミックガーデニングなのかなと思います」。

情報発信をサポートする学生ベンチャー『OSATO』

エコノミックガーデニングを広めるための地元企業の情報発信に一役買っているのが、段野先生の研究室のゼミ生たちが立ち上げた徳島大学発ベンチャー企業『株式会社OSATO』です。

日本各地のEG実践地に取材し、調査結果を発表した公共政策コース4年の鈴江ひかりさん。鳴門市の126社を対象としたアンケートから、設立年数10年未満の企業は支援制度をよく活用しているが、20年以上30年未満の企業の活用率は低く、企業から手続きの簡略化や専門家による適切なアドバイスを求める声があったことなど、EGに関する考察と提言を行いました。

現在、立ち上げに関わったゼミの卒業生は会長となり、4年生が社長を務めているのだとか。『OSATO』は学生の視点から、企業の魅力を紹介する動画やインタビュー記事の作成、商品開発のためのアンケート調査など、情報発信を通じて中小企業支援を行っています。

「学生が情報発信するメリットは、同じ立場で学生の心に響くものを作れること。学生が地域に入って企業を深く知ることで、就職の際、県内企業に目を向けるきっかけになります」。今後は地域経済論の受講生も企業を訪問し、取材を行う予定だといいます。

「学生は自分がやりたいことができる企業か、自分の意見を聞いてもらえる企業かなど、働きがいや自身のキャリアビジョンを真剣に考えています。そうした企業が徳島にもあると分かれば、徳島県に残ってもらえるはず。在学中にできるだけ地元企業の魅力に触れる機会を作れたらと思っています」。

社会人向けビジネススクールは7月開講！

段野先生は2024年から始まった社会人向けのビジネススクール『とくしまビジネスリスキリングスクール』で「エンゲージメントマネジメント講座」や「人を大切にする経営学」なども担当しています。経営者やマネジメント層も多く受講し、異業種交流会のような雰囲気なのだとか。

「企業の方にはどんどん大学に入っていただきたいと私は思っています。共に学び、連携し、エコノミックガーデニングを推進することで、徳島県の中小企業やスタートアップの成長が促進され、地域経済の活性化につながります。外部企業の誘致に頼るのではなく、地元企業の力を高めることで、持続可能な雇用創出や産業の多様化も期待できます。

地域資源を活かしたビジネスが増えれば、地域産業の発展にも貢献できる。県全体の魅力が向上すれば、若者の定住の促進にもつながると思います」。

今後は阿南市でもエコノミックガーデニングが導入される予定。徳島県がエコノミックガーデニングの最先端地域として注目されるかもしれません。

シンポジウムに参加したゼミ生の皆さん。段野先生の講座を受けてみたいという社会人は5月から募集がはじまる『とくしまビジネスリスキリングスクール』をチェック！

文部科学省「令和6年度地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択されました

本学は、本事業において、本学に集結した4つのイニシアティブ（「光工学」「慢性炎症研究」「栄養学」「情報科学」）の研究力を結集し、世界が直面する超高齢社会の課題解決に挑戦していくことを10年後のビジョンとして掲げ、創造的超高齢社会の実現に資するイノベーションを生み出し続ける研究大学へと発展していきます。

徳島大学イノベーションプラザ開所20周年記念式典・講演会を開催しました

2024年11月30日、常三島キャンパス創成学習スタジオにて、徳島大学イノベーションプラザ開所20周年記念式典・講演会を挙行しました。当日は、河村保彦学長や河野文昭高等教育研究センター長をはじめ、イノベーションプラザの活動に携わっていただいた先生方、卒業生や教職員、在学生など多くの方にご出席いただきました。

「イノベーションプラザ」は、創成学習開発センター（現在の高等教育研究センター）における学生の自主創造の場として平成16年に設置されました。ものづくり教育を基礎として、解決困難な課題に対して新規アイデアを創出し、それを社会へ実装することで課題解決を行うことができる真のイノベーション人材の輩出を図ることを目的として、様々な活動を行っています。

今後もプロジェクト活動を通して、学生には「自らを創成する」ことを目的に様々なテーマに取り組んでもらいたいと考えています。

学生団体支援チャリティーイベント「TOKUSHIMA UNIVERSITY GIVING CAMPAIGN 2024」表彰式・懇談会を実施しました

本学では2024年10月11日から20日にかけて「TOKUSHIMA UNIVERSITY GIVING CAMPAIGN 2024」と題し、徳島大学・徳大生を応援するオンラインチャリティーイベントを実施しました。このイベントでは在校生だけでなく、教職員、卒業生、学生のご家族の皆さま、地域・そのほか一般の方々の参加があり、本学35の学生団体に対し、合計9103名の方に応援票を投じていただきました。

そして、12月12日に、参加した学生団体の活動を称え、寄付文化の醸成と大学支援の輪を広げることを目的に、このイベントの表彰式・懇談会を実施し、計14団体27人の学生と大学役員等が出席しました。12月は寄付月間（Giving December）でもあり、本会は、「Giving December2024」の賛同企画としても開催しました。

今回のイベントに関しまして、応援票やコメント、ご寄付など、学生団体へあたたかいご支援を賜り、誠にありがとうございました。

「徳島大学統合報告書2024」を発行しました

本学の教育、研究、地域貢献等の具体的取組を紹介するとともに、財務状況について分かりやすく説明しております。この報告書を通じて、本学のこれまでの取組やこれから目指していく目標について広くご理解いただければ幸いです。

上記よりご覧ください。

NICHIA
Ever Researching for a Brighter World
身近なところでNICHIAの製品は活躍しています
日亜化学工業株式会社
徳島県阿南市上中町岡491番地
TEL:0884-22-2311
会社HP

◉奨学金のご案内

日本学生支援機構奨学金

貸与奨学金には「第一種奨学金（無利子貸与）」と「第二種奨学金（有利子貸与）」があり、令和2年度より国が実施する「高等教育の修学支援新制度」として、給付奨学金制度が実施されています。定期採用の募集案内は4月上旬になります。申込から振込までの流れや手続きについての詳細はホームページをご確認ください。

徳島大学ホームページ（奨学金）

日亜特別待遇奨学金

理工学部の日亜特別待遇奨学金は、日亜化学工業株式会社様のご厚志により贈られた寄付金を原資として、学業、人物とも優秀な学生に対し返済義務を課さない奨学金を給付する特別待遇奨学制度として2005年に発足しました。詳細は理工学部ホームページをご確認ください。

徳島大学理工学部ホームページ（奨学金）

油圧シリンダ専門メーカー
MIMURA
インターンシップ&
会社見学受付中!!
ミムラテッコウ
アイツ
真面目は見えない
見えないアイツを
――― 宿らせろ
建機用
ジャッキシリンダ
シリンダ内径 | 130mm
ロッド外径 | 100mm
ストローク | 590mm
使用圧力 | 20.6MPa
最高出力 | 伸び側274KN
| 縮み側77KN
オリジナル短編動画「ミムラテッコウ」スペシャルサイト
MIMURA TRAINING STORY ものづくりの出発点
オリジナル短編動画「ミムラテッコウ」誕生秘話
インターンシップ受付はこちら マイナビ2027
当社は香川県さぬき市で『油圧シリンダ』を専門に作っている会社です
三村鉄工株式会社
〒769-2105 香川県さぬき市末371番地6 TEL:087-894-7788(代)
YouTubeでも情報発信中
公式HPはこちらから